

MELON とは... ● 緑と水と食をおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体でつくられた、NGO(非政府組織)です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

情報紙

MELON



Miyagi Environmental Life Out-reach Network

2007年3月★第72号

大盛況！ 環境学習『やってみらいん！』フォーラム



♪開催日 2/17(土)

♪会場 せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア

たくさんの方にご来場いただき、会場は活気溢れるものとなりました。フォーラムにご来場くださった皆さん、大勢のスタッフの皆さん、広報にご協力くださった皆さん、本当にありがとうございました。

詳しいレポートは2面をご覧ください。

*** Index ***

- | | |
|--|--------------------------------------|
| P2. 環境学習「やってみらいん！」フォーラム | P6. 市民講座 田んぼの生き物調査が
稲作の未来を変える |
| P3. 仙台発
エコスポーツ推進プロジェクト セミナー | MELON 協力団体の情報コーナー |
| P4. CLUB-FOREST「日本は京都議定書の
目標を達成できるのか？」
シリーズ かんきょう読み聞かせ | P7. ストップ温暖化センターみやぎ「通信」 |
| P5. 市民講座 ちょっと気になる木のお話
コーナー MELON20周年を目指せ！
50人リレートーク | P8. MELON 維持会員総会のお知らせ
ボランティア参加の報告 |

体験から考える 環境学習



《事例発表会》

事例発表①「お散歩からの自然体験」

山路博子氏（学校法人・仙台みどり学園 みどりの森幼稚園）

小野正之氏（NPO法人サイカチネイチャークラブ）

事例発表②「笹舟から歴史と環境を考える」

石山芳毅先生、高橋悠君（仙台市立荒町小学校）

布田直志氏（NPO法人笹舟）

事例発表③「地球温暖化ってなあに？」

青山清司先生、金谷恭平君、飯塚悠介君（仙台市立幸町中学校）

小幡秀樹氏（宮城県地球温暖化防止活動推進員）

【コーディネーター】

見上一幸氏（宮城教育大学環境教育実践研究センター教授）

『環境学習「やってみよう！」フォーラムに参加して…』

せんだいメディアテークにて開催されました環境学習「やってみよう！」フォーラムにボランティアとして参加させていただきました。

事例発表会では、幼稚園の子ども達と保護者が一緒に野山を散策したり、小学生とNPOの共同での巨大な笹舟づくり体験や、中学生の野菜作りや企業訪問など、大人と子ども、社会と学校が手と手を取り合って、環境学習に取り組んでいることに感心しました。

体験コーナーでは、ツキノワグマやももんがの剥製の展示、まつぼっくりなどの木の实を使った人形作りや竹とんぼづくりなどは、

子どもだけでなく大人も童心に返って楽しんでいるようでした。特に、動物達のフンのコレクションなどはこのような機会でないとなかなか見たり、比べたりはできない貴重な体験でした。自然の中に入って楽しむことで体感し、将来、環境を自然に考えられる心が育まれるのですね。

フォーラムに参加して、「簡単にできることでも、多くの人に参加することで形になることが分った」という中学生の言葉が心に残りました。5年後、10年後の未来のために、私達にできることから始めようと思います。

Report 伊藤さおり（MELON 会員）



蝶の標本の展示



蝶の羽を顕微鏡で見る



竹とんぼ作り



動物の剥製の展示



ミニチュア笹舟の展示

《各コーナー協力》

NPO法人サイカチネイチャークラブ、NPO法人宮城県森林インストラクター協会、NPO法人笹舟、宮城教育大学環境教育実践研究センター、みやぎ環境学習パートナーシップ会議メンバー

仙台から発信するスポーツの ECO

2月11日（日）仙台市市民活動サポートセンターセミナーホールにおいて「仙台発エコスポーツ推進プロジェクトセミナー」を開催しました。

これは、MELON が取り組んでいる仙台的の3つのプロスポーツ（ベガルタ仙台、楽天イーグルス、仙台 89ERS）での環境活動を広く県内外に発信し、同時に県外の活動事例を学び情報交換することを目的に開催したものです。

会場には、県内でスポーツボランティアに取り組んでいる方をはじめ、東京、新潟、山形と県外からも多くの方に足を運んでいただき、70名の参加がありました。

内容は、事例紹介とパネルディスカッションの2部構成で、一般への環境の普及啓発の重要性が説かれました。

事例紹介では、村松淳司氏（MELON 評議員）が MELON のエコシティ仙台プロデュースプロジェクトについて、小野武彦氏（楽天ボランティア・MELON 会員）が楽天イーグルスのボランティア活動について、田中育郎氏（東京ヴェルディ 1969）から地域に密着し、クラブ全体で取り組んでいる ECO プロジェクトの紹介がありました。東京ヴェルディ 1969 はクラブ単位で「チーム・マイナス6%」に登録しているほか、選手全員、監督、コーチ、一人一人が個別に登録しているとのことでした。



たくさんの方にご来場いただきました

また、スポーツにとどまらず不特定多数を対象としたごみ減量の普及啓発に取り組んでいる事例を学ぼうと、音楽界の環境活動のパイオニアとして羽仁カンタ氏（A SEED JAPAN）をお招きし、次のようなアドバイスをいただきました。イベントでの環境活動を実現するために①主催者とお互いに信頼しあえるパートナーシップを築く②ボランティアをしっかりとケアする③来場者の自発性を引き出す、と以上3つのことを必要なものとして上げていただきました。イベントで環境活動を行う際の参考にさせていただければと思います。締めくくりには、元宮城県環境生活部次長の萩原なつ子氏（立教大学教授）にまちづくりの視点からアドバイスをいただきました。

パネルディスカッションでは、泉田和雄氏（スポーツボランティア SV2004）をコーディネーターに迎え、上記の事例紹介者に林俊広氏（環境省「チーム・マイナス6%」事務局）、高橋勝志氏（モンテディオ山形運営サポーター Aile）が加わり、多彩な顔ぶれで活発な情報交換を行いました。お互いの活動にアドバイスしあう場面もあり、参加者からは「ボランティア活動をしていく上で、より納得して活動できる情報を得られて大変良かった」と感想が寄せられました。

思いは同じでもそれぞれのアプローチの仕方があり、学び合うところの多い大変有意義な1日となりました。



楽天イーグルスの取組みの問題点を指摘してくださった小野武彦さん（写真右から2人目）



← 大好評！ A SEED JAPAN 特性ひろしき



← 周りには包み方の紹介が載っています

CLUB-FOREST レポート

京都議定書を考える

皆さん 2 月 16 日は何の日か知っていますか？
そう、2 月 16 日は京都議定書が発効された日です。これを記念して「日本は京都議定書の目標を達成できるのか？」というテーマでストップ温暖化センターみやぎとのジョイント企画を開催しました。

はじめに、「そもそも京都議定書って何？」という疑問に答えるため京都議定書についての説明を行い、その後長谷川センター長を中心に話が繰り広げられました。京都議定書は、地球温暖化を防ぐために CO₂ の削減目標を定めたものです。最近の暖冬傾向もあり、多くの国民に地球温暖化



問題が認知されてきていることも踏まえてさまざまな意見が出されました。また、各国の環境問題に対する制度や国民の意識についても話が及びました。制度の確立を求めるのがいいのか、意識の高さを求めるのがいいのか、考えさせられた、印象に残る 2 時間になりました。



サンゴ銃後（その 1）



まず「エリセラさんご」（水木圭子 文 和田 誠絵、リプロポート 1992 年 5 月）をよみましょう。サンゴの卵が受精するとプラヌラと呼ばれる幼生が生まれます。プラヌラは海の中をただよっていきます。たどり着いた場所が

今回は北海道の話をしたので、今度は沖縄の話をして3回続けて取り上げましょう。

なぜ3作も読むのでしょうか。いくつかの話題を並べて読んでみると、これまで無関係だとも思っていたことが、スーッとまとまってしまうことがあるものです。そうすると、ひごろニュースを聞いたり読書をしたりするときに、無関係なことをつなぐ「中間子」のようなものが、不意に聞こえたり見つかったりするものです。たとえば、私はたまたまサーカスに関する本を読んでいたとき、一八六七年のパリで開かれた万国博覧会には、当時の幕府の他に薩摩藩が琉球王国を名のってのりこんでいったことが書かれていました。これがとても気になってしょうがなかったのです。「いつの時代も、為政者の「都合」だけで地域が勝手に変えられていく。」ことが不意にみつかるものです。

さて、絵本に進みましょう。

サンゴにとって適した場所ならそこに定着します。やがて水中花のようなポリプになります。

ではいったいどんなところが、サンゴに「適した」場所なのでしょう。写真家の中村庸夫さんが少し詳しく書いている「サンゴ礁と海の生き物たち」（誠文堂新光社 2006 年 2 月）では、「塩分濃度の高い透明な海水」で、「水の濁りやプランクトンが少なくて海底まで十分な太陽光線が届くところ」なのだそうです。サンゴは水中に溶けた二酸化炭素を石灰質にしまいます。地球温暖化の防止の役目もしているのですが、海の汚れでサンゴ礁は減ってきています。それだけではありません。いま、沖縄の海では、基地の移転によってサンゴの海が危機にさらされています。『国をまもる』といういさましい言葉のおかげで、よその国の軍隊にサンゴ礁の海を壊させている『美しい国』などというものがあるかどうかよく考えてみなくてはなりません。

第 8 回 MELON 環境市民講座レポート

切迫する木材事情

1月20日(土)、仙台市宮城野区の宮城木材文化ホールにて、「第8回 MELON 環境市民講座・ちょっと気になる木のおはなし」を開催しました。企業&環境プロジェクトの取り組みとしては目先を変えた企画に予想外の反応がいただけで、定員50名を上回る70名の皆様にお越しいただきました。

宮城県森林組合連合会代表理事専務・木村敏男氏の講話では、国内外をとりまく木材の市場観から、宮城県の植生にいたるまで多岐にわたる概論を展開していただきました。

続いて事例紹介に移り、NPO 法人エコメディアファンデーション・小野妙子氏からは、広告付国産間伐材割り箸の展開を目指す「アドバシプロジェクト」の概要を発表いただきました。株式会社市瀬の市瀬慎太郎氏の事例は、国産間伐材使用

比率を高めるビジネスモデル「3.9 ペーパー」についての概要をご紹介いただきました。さらに、株式会社サカモトの大沼毅彦社長から、地域に根ざした住宅メーカーとしての理念・実践について発表いただきました。

事例を通し、木材をとりまく現状がいかに切迫しているかが会場全体に伝わり、最後の質疑応答では非常に熱のこもった質問が寄せられました。今回提供された情報が、より広く伝わる手ごたえを筆者として強く感じる講座でした。次回、続編も期待したいところです。

Report 小山善久(株式会社東北オフィスマシン)
企業 & 環境プロジェクトメンバー



MELON20 周年をめざせ!

50 人リレートーク



第 15 回目の執筆者
遠山伸子さん
(片平たてもん
応援團 団員)

古い建物の愛好活動を始めて 12 年ぐらいになります。仙台市内に残る東北大学片平キャンパスの建物群が、移転による存続の危機にさらされていることを危惧して、というのも仙台にはほとんど古い建物が残っていなかったので明らかに貴重な財産と感じたからなのですが、「片平の建物って素敵だよ〜！」と仲間の桜井さんと共に賛同者を募ったのが 1998 年 5 月のこと。少数派意見かと思ったら、なんとその月の内に 80 名が集結してくださり、声をかけた私達のほうがびっくりしてしまいました。「やっぱり町並みに古い建物が残っていて欲しい人がいっぱいいるんだなあ」と、百万の味方を得た心強さでした。そこで、キャンパス内の清掃ボ

ランティア、片平の未来を語る会、仙台の周辺に残る古い建物の見学会…等等など、まずは古い建物とその歴史を大切に、知ってみる、行動してみる、を主眼に活動をしてきました。約 10 年が経った今、私たちのささやかな声が役立ったのかどうかはわかりませんが、片平の建物はなんと、とりあえずほとんど残っています。

私はこの間、建物以外にも土木遺産調査や街づくり活動にも参加してきました。また本業として、塾と精神障害者施設の職員をつとめています。それらをやってみて痛切に感じるのは、「古い建物や土木遺産を大切にしよう」というのと「子供の教育」「弱者の社会参加」、すべては同じ根を持つということです。今後も相互に、活動と仕事で得た経験を生かしていきたいと思います。

次回 執筆者紹介

松川清子さん(野蒜築港ファンクラブ事務局)

文化庁による各県の遺産調査の土木調査で、明治の三大築港たる野蒜の調査研究をされている松川さんと出会いました。現在資料館でも活躍され、様々な世代の方と共に地域の歴史的財産を継承していらっしゃいます。

第9回 MELON 環境市民講座レポート
田んぼから考える環境問題

2月22日(木)、みやぎ生協古川南店(大崎市)にて、第9回MELON環境市民講座『田んぼの生きものが稲作の未来を切り開く』を開催しました。佐々木陽悦実行委員長から、大崎地域での環境のネットワークづくりを目的に活動を進めており、本講座をきっかけにたくさんの方にご参加いただきたいというあいさつがありました。

講師には、原耕造氏(全国農業協同組合連合会SR推進事務局長)をお招きしました。原氏は、従来の経済合理性だけを追求する農業から『人と生きものに優しい農業』への価値転換を支援する活動を展開されています。

「生産履歴の記帳と誤解されがちなトレーサビリティは、もともと食と農をつなげるためにつ



生産者・消費者などさまざまな立場の方が集まりました

くられたものであり、地球の安心がトレーサビリティの鍵である。よって、食の安全・安心の視点からの環境問題の取り組みは間違いであり、田んぼの生きものの視点から農業と環境を考えることが大切である。」等のお話をいただきました。

事例発表会では、加美よつば農業協同組合、みどりの農業協同組合の発表がありました。講演の内容はもちろんですが、原さんを慕って93名の方が足を運んでくださいました。6月には、実際に『田んぼの生きもの調査』を実施する予定です。ご興味のある方はお気軽にご参加ください。

各協同組合からのお知らせ

MELONの協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

春の観察会・植林体験会のご案内

春の蕃山自然観察会

仙台の中心部から30分ほどで行ける蕃山ですが、モミヤイヌブナの巨木、アカマツなど林が点在し、里山の自然を満喫できます。

日時：2007年4月14日(土)
 10:00～14:00
 集合：茂庭台市民センター 10:00 集合
 参加費：500円(中学生以下半額)
 講師：親川麗子さん(自然観察指導員)
 持参物：飲料、昼食、雨具、軍手、敷物
 締切り：4月6日(金)

みやぎ生活協同組合からのお知らせ

植林体験会

みやぎ生協では皆様から寄せられた募金やアルミ缶回収売却益を基に植林活動を行っています。皆の力で宮城に緑を増やしましょう。

日時：2007年4月28日(土)
 植林場所：こ～ぶの森立神山(石巻市北上町十三浜)
 集合場所：仙台駅西口バスプール(現地集合もあり)
 集合時間：8:20
 参加費：2,000円(バス代含む。中学生以下半額)
 現地集合は500円
 持参物：飲料、昼食、雨具、軍手、長靴、トグワ(あれば)



昨年の植林の様子

参加希望の方は、住所・氏名・電話番号を明記の上、ハガキ・FAX・メールで下記までお申込ください。同行者は連記ください。(申込多数の場合は抽選になることもあります)

■申込・問い合わせ先■
 みやぎ生協生活文化部 環境活動事務局 昆野
 〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2
 TEL 022-218-3880 FAX 022-218-3663
 E-mail kankyok@snet.coop.or.jp

ストップ温暖化センターみやぎ『通信』Vol.32

宮城県地球温暖化防止活動推進員 今春4期生が誕生します

今年度最後となる推進員合同研修を開催し、5名の推進員に事例報告を行っていただきました。昨年から比べると活動内容がより充実してきており、さまざまな分野で活躍の場が広がっているようです。特にこの春4期生となる推進員候補者には刺激となり、今後の活動方法を見出すきっかけになったと感じられました。

また、推進員同士のグループが組織として立ち上がるなど活発な活動が見受けられ、来年度は更なる活躍が期待されます。



合同研修には候補者、推進員、あわせて38名が参加

ツバルの現状から知る 地球温暖化

ツバルの写真家として有名な遠藤秀一さんが岩切小学校にて4、5、6年生、岩切中学2年生の総数420名を対象に講演を行いました。温暖化の影響により世界で最初に沈むといわれているツバルの現状についてお話いただきました。遠藤さんの分かりやすい話に加え動画を使った資料に生徒達も熱心に聞き入っていました。



子ども達に向けて丁寧にお話して下さる遠藤さん



体育館には420名の子ども達が集まりました

ツバルの現状

- 海抜上昇によって沈むだけでなく、高潮・津波による侵食被害が著しく、島が削られ、無くなるようとしている。(異常潮位の回数が昔よりも著しく多い。)
- コンクリート等による防波堤・護岸整備をするにも、資材・機材・人材全てにおいて不足しており、全てを輸入に頼るため工事費用が大きくかかる(ツバルは基本的に収入の無い国)。
- 海抜の上昇によって塩害が増加。農作物への影響が大きく、農作物は輸入に頼る状況。
- ツバルは海を中心とした自給自足の生活であるが、サンゴの死滅等によって生態系に影響が出ており、深刻な食糧問題へ発展する恐れがある。

私たちができる温暖化対策

- 石油エネルギーを大量に使うごみ袋の削減として「マイバック」の持参を推奨
- ペットボトルによる環境負荷を踏まえ、「マイ水筒」の持参を推奨
- 無駄なものを買わない。ツバルを見習った、物質主義からの脱却。

維持会員総会のご案内

第 12 回 MELON 会員と市民のつどい

6/16(土) 13:30 ~ (予定)
 せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア

☆維持会員総会終了後に温暖化をテーマにした
 記念講演を予定しています。

「維持会員総会」って？

MELON 会員の皆さんに、MELON の運営や活動
 の報告をする会です。

財団法人として寄付行為（株式会社の定款にあたる
 もの）に基づき年に 1 度開催しています。

議決権はあるの？

財団法人の場合、理事会が議決機関になりますので
 維持会員総会には株主総会のような議決権はありませ
 ん。

総会は、会員の皆さんの『声』を聴く 大事な会です。

今後 MELON にどんな活動を進めて欲しいか、皆
 さんのご意見を直接伺う大切な会です。ぜひご出席
 ください。

ボランティア協力 ありがとうございます！

MELON 主催のイベントの準備や運営は、た
 くさんのボランティアの皆さんに支えられていま
 す。参加して下さった皆さん、ご協力ありがと
 うございました。

- 1/13 (土) MELON 情報紙発送 3 名
- 1/20 (土) 第 8 回環境市民講座 6 名
- 2/17 (土) 環境学習「やってみらいん！」
 フォーラム 30 名
 (2007/01 ~ 2007/02)

※ MELON ボランティアポイント制度をぜひご活用く
 ださい。詳しい内容と最新のボランティア募集情報は、
 MELON の web-site にてご案内しております。

皆さんのご協力を
 お待ちしております。



会員状況

合計	1,052
法人	119
任意団体	18
個人	915



(2007 年 2 月 20 日現在)

新会員のご紹介

♪ 個人会員 ♪

熊田修也 (仙台市)、佐藤みさき (七ヶ浜町)
 浜砂友理子 (大崎市)、佐原神児 (山形市)

♪ 企業会員 ♪

株式会社 FMS 総合研究所 (仙台市)

2006/12/11 ~ 2007/02/20

編集後記

事務局にいらっしゃる方に、お菓子をいただく
 ことがあります。気分転換に、大活躍です！

(太宰)

今年はほとんど雪が降りませんでしたね。寒い
 のは嫌ですが、無いのはやはりさみしいな～

(井上)

今年度最後の環境市民講座に行ってきました。
 移動の際、高速道路から我が母校を見ることが
 できました。中・高とも高速道路から見れるの
 は嬉しいですね。でも、あの頃に戻りたくなり
 ます…。

(南)

本当に雪が少ない冬でした。雪かきの道具はク
 モの巣がはっていそう…。まさか雪遊びができ
 ない年がこようとは思いませんでした。子ども
 達も、それから我が家の犬も、今冬は実につま
 らなかったことでしょうね。

(鈴木)

発行元 財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON)

Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木 1-2-45 フォレスト仙台 5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5710

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jpn.org URL <http://www.melon.or.jp/melon/>

※ MELON 情報紙は古紙 100%再生紙を使用しています。